

日本生理心理学会投稿規程

(1983.9.13 制定, 83.11.30, 84.1.21, 84.6.1, 84.10.11, 84.11.7, 87.6.5, 87.10.13, 88.9.21, 89.7.12, 96.9.11 一部改正, 97.9.19, 2003.9.13 大幅改正, 05.5.27, 11.6.1, 11.10.1, 13.5.17, 13.9.30, 14.12.1, 18.7.1, 19.5.24 一部改正)

1. 本誌には、原著、短報、テクニカルノート、評論、討論¹⁾、その他編集委員会が必要と認めたものを掲載する。
2. 第一著者は会員に限る。第二著者以降および依頼論文はこの限りではない。
3. 論文の内容は、心理学における研究倫理に則るものとする。
4. 論文は、未刊行の、本学会にふさわしい内容の和文または英文とする。
5. 和文の場合は“心理学研究”の、英文の場合は“Japanese Psychological Research”の執筆規定、及び“執筆・投稿の手びき(2015年改訂版)”(<http://www.psych.or.jp/publication/inst.html>からダウンロード可、以下“手びき”と略記する)に準ずる。
6. 前条に拘らず、本学会では以下の諸点は“手びき”と異なる。
 - 6.1. 論文の長さは、原則として、原著は刷り上がり10ページ以内、短報・テクニカルノートは6ページ以内、評論は20ページ以内、討論は2ページ以内とする。規定ページを超えた場合、超過掲載料(現在のところ2ページまで毎に約6,000円)を徴収する。
 - 6.2. 図表は必要最小限にとどめ、図表もページ数に含めることとする。図表原稿の大きさは、刷り上がりの2倍にする。
 - 6.3. 本文中における文献の引用時において、著者が1人のときと2人のときは“手びき”に則る。著者が3人以上のときは、第二著者以下の姓を省略し、“et al.”、“ら”を用いる。このとき、第一著者のみでは同じ表記になるときは、刊行の年次順に配列し、同一年次のときは、“年次a”、“年次b”のようにa、bをつけて区別する。
 - 6.4. 論文は、Microsoft Wordで作成したワードファイルを原稿とする。
 - 6.5. 和文原稿は、A4サイズにページ設定し、日本語はMS明朝フォント(12ポイント)、英数字は半角のTimes New Romanフォント(12ポイント)を使用する。マージンは上35 mm、下、左、右はそれぞれ30 mmとり、1ページあたり24字×21行とする。審査者が指定し易いように、原稿の左側に行番号(ページごと)を、下部中央にページ番号を入れる。この原稿4枚で刷り上がり1ページに相当する。表題・所属・氏名を除き、図・表・文献・アブストラクト等を含み、原著は40枚以内、短報・テクニカルノートは24枚以内、評論は80枚以内、討論は8枚以内である。
 - 6.6. 英文の場合も、ページやフォントの設定は和文の場合と同様とする。原著は約6,000語、短報・テクニカルノートは約3,500語、評論は約12,000語、討論は約1,200語に相当する。
 - 6.7. 原稿および英文アブストラクトは、アブストラクトの和訳を含め提出する。
 - 6.8. 審査は、著者名等を伏せないで行う。
 - 6.9. 姓を含め20字以内(英文の場合40字以内)のランニングヘッドを添付票に記す。
 - 6.10. 別刷は原則として有料とする。
 - 6.11. 著者校は初校(場合によっては再校)のみ行う。
 - 6.12. 掲載が決定した論文をJ-STAGEで公開する際、画像・音声等の電子付録をつけることが可能である。電子付録の利用の可否は、別に定める本誌の編集規程に基づき決定する。
7. 本誌に掲載する論文等の著作物の著作権は、本学会に帰属するものとする。
8. 投稿は、次のメールアドレスへ原稿ファイルを添付して送信する。

送付するファイル:

 - ・添付票(学会ウェブページから書式をダウンロード可)
 - ・原稿ファイル(英文アブストラクト・英語キーワード、それらの和訳、表、図、図のキャプション、脚注を含む)
 - ・英文校閲証明書(和文論文であっても、アブストラクト等に関する校閲が必要)
 - ・倫理チェックリスト(学会ウェブページから書式をダウンロード可)

送付先:

日本生理心理学会編集委員会事務局 jjppp@seirishinri.com
9. 本規程の改正は、編集委員会における出席者の2/3以上の同意による。

附則

- 1) この規程は、1983年9月13日から施行する。
- 2) この改正規程は、2019年5月25日以降の投稿論文から適用する。

注

- 1) 討論は、本誌に掲載された論文に対する討論で、審査が通れば原則としてそれに対する著者の応答とともに掲載される。